

科目名 (英)	美容・老年鍼灸実技 <small>Beauty and Aging-related Acupuncture and Moxibustion Practical Skills</small>	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	
学科・コース	鍼灸科	授業 形態	実技	総時間 (単位)	45 1	開講区分	前期
【授業の学習内容】							
<p>鍼灸治療を求める患者層は広く、そのニーズも多岐にわたる。その多様なニーズに応える知識、技術を有することが、鍼灸師としての活躍の幅を広げ、多くの患者さんのADLやQOL向上につながる。</p> <p>本科目では、多様化する鍼灸の社会的ニーズに対応できる能力(美容分野・老年分野)を養うため、美容分野においては、美容鍼灸の概要や代表的な美容トラブルに対するはりきゅう施術について、老年分野においては、高齢者に特有な疾患、症候の概要とはりきゅう施術の方法、機能訓練について学習する。</p> <p>実務実績 特別養護老人ホーム青都荘にて診察から治療までの業務を行う 資 格 はり師・きゅう師</p>							
【到達目標】							
<p>&lt;美容分野&gt;</p> <p>①美容鍼灸の基本となる中医学的な考え方(整体観念、気血津液と美肌、五臓と美容)について説明できる。</p> <p>②代表的な美容トラブルに対する対処法(はりきゅう施術、食事指導等のアドバイス)が実践できる。</p> <p>&lt;老年分野&gt;</p> <p>①加齢による機能低下とそれに起因する症候(ロコモティブシンドローム、老年症候群)について説明できる。</p> <p>②①に対する対処法(はりきゅう施術、機能訓練)が実践できる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	中医美容の概要:整体観念に基づいた中医美容の考え方や保健美容、医療美容について説明できる。
2回目	気血津液弁証に基づいて体質を分け、それぞれの体質に応じた対処法を実践する。
3回目	臓腑弁証に基づいて体質を分け、それぞれの体質に応じた対処法を実践する。
4回目	にきび・吹き出物のメカニズムを理解し、説明できる。にきび・吹き出物に対する施術を行う。
5回目	肥満症のメカニズムを理解し、説明できる。痩身を目的とした施術を行う。
6回目	脱毛症のメカニズムを理解し、説明できる。脱毛症に対する施術を行う。
7回目	顔面にある脈管、神経、表情筋の走行を確認し、顔面への施鍼で用いる経穴の取穴を行う。
8回目	顔面への施鍼1:フェイスラインのリフトアップを行う。
9回目	顔面への施鍼1:フェイスラインのリフトアップを行う。
10回目	顔面への施鍼2:目周囲(目元のたるみ)や額部(おでこや眉間のしわ)に対する施鍼を行う。
11回目	顔面への施鍼2:目周囲(目元のたるみ)や額部(おでこや眉間のしわ)に対する施鍼を行う。
12回目	フェイスラインのリフトアップと目周囲、額部を合わせて、顔全体への施鍼を行う。
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学 習	顔面の解剖や取穴の確認をしておいてください。
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。
受講生へ のメッセ ージ	中医美容はこれまで学んできた東洋医学を基礎とし、美容分野に応用させたものです。 気血津液弁証や臓腑弁証などを通して、これまで学んできた内容の復習もできますので、美容分野で皆さんの持っている知識をどう活かせるか考えながら取り組んでください。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	美容・老年鍼灸実技 <small>Beauty and Aging-related Acupuncture and Moxibustion Practical Skills</small>	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	
学科・コース	鍼灸科	授業 形態	実技	総時間 (単位)	45 1	開講区分	後期
【授業の学習内容】 鍼灸治療を求める患者層は広く、そのニーズも多岐にわたる。その多様なニーズに応える知識、技術を有することが、鍼灸師としての活躍の幅を広げ、多くの患者さんのADLやQOL向上につながる。 本科目では、多様化する鍼灸の社会的ニーズに対応できる能力(美容分野・老年分野)を養うため、美容分野においては、美容鍼灸の概要や代表的な美容トラブルに対するはりきゅう施術について、老年分野においては、高齢者に特有な疾患、症候の概要とはりきゅう施術の方法、機能訓練について学習する。							
【到達目標】 ＜美容分野＞ ①美容鍼灸の基本となる中医学的な考え方(整体観念、気血津液と美肌、五臓と美容)について説明できる。 ②代表的な美容トラブルに対する対処法(はりきゅう施術、食事指導等のアドバイス)が実践できる。 ＜老年分野＞ ①加齢による機能低下とそれに起因する症候(ロコモティブシンドローム、老年症候群)について説明できる。 ②①に対する対処法(はりきゅう施術、機能訓練)が実践できる。							

授業計画・内容	
1回目	ロコモティブシンドロームについて解説を行う。ロコモティブシンドロームや歩行機能に関する評価方法と運動指導について解説を行う。
2回目	ロコモティブシンドロームや歩行機能に関する評価方法と運動指導を実践する。
3回目	歩行機能に支障をきたす運動器疾患(膝痛を中心に)への鍼灸治療を実践する。
4回目	老年症候群について解説を行う。口腔機能に関する評価方法と運動指導について解説を行う。
5回目	口腔機能に関する評価方法と運動指導を実践する。
6回目	認知機能に関する評価方法と擦過鍼の治効理論について解説を行う。
7回目	認知機能低下に対する擦過鍼療法を実践する。
8回目	要介護高齢者への鍼灸治療に必要な介護技術を実践する。
9回目	要介護高齢者への鍼灸治療に必要な介護技術を実践する。
10回目	機能訓練指導員の役割および個別機能訓練の評価、指導計画について解説を行う。
11回目	個別機能訓練の評価、指導計画立案を実践する。
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	2年次前期の「高齢者の心理と支援」で学んだ、加齢に伴う身体的変化についての復習が必要です。
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	